

# 令和元年度事業報告書

平成 31 年（2019 年）4 月 1 日～令和 2 年（2020 年）3 月 31 日

公益財団法人知床自然大学院大学設立財団

## はじめに

令和元年度は財団設立から 7 年目、公益財団法人認定から 6 年目となり、定款に沿った公益目的事業の取り組みを積極的に行うと共に、公益法人制度に則った正確な組織運営に努めた。

公益事業では、野生生物と人間社会との間に生じた様々な問題解決と共生を実現する専門家を養成する高等教育研究機関（「知床自然大学院大学」という）の計画策定と実現へ向けた事業について、設立から前年度までの活動成果を踏まえた事業の充実を図った。計画策定事業では、設立を目指す教育機関の教育プログラムや教育課程、教育体制や教育機関のあり方について、計画策定専門委員会での議論を行い、加えて各委員や専門家、関係行政機関との意見交換の場を多く設けて検討を継続した。また、教育活動の実践を通して必要な教育プログラムを検討し、計画策定に生かすため「知床ネイチャーキャンパス 2019」を開催した。この事業は、当設立財団が目指す教育の姿を「見える形」で紹介し、養成する人材像とその教育プログラムを広く示す広報活動としても位置づけ 2016 から始めた事業であるが、今年により充実した内容とするためオンライン講義も取り入れた。広報活動ではニュースレターの発行とホームページへの情報掲載を行ったほか、SNS を利用した広報活動を展開した。また、日本学術会議の検討へ参画し、国への提案の中で人材養成のための教育プログラム創設の重要性が強調された。引き続き地元自治体への報告や意見交換の場を積極的に持ち、理解と協力の拡大につなげた。賛助会員や支援者・支援企業の拡大を図り、支援者との共催事業や交流の場を設けて、支援の輪を広げる活動を展開した。

## I 公益事業

- 【1】 知床自然大学院大学を開設する学校法人設立の準備、及び知床自然大学院大学の設置あるいは誘致の準備をする事業（定款第 4 条第 1 項）

### （1）知床自然大学院大学計画の策定と専門委員会の開催

野生生物と人間社会との間に生じた様々な問題解決と共生を実現する専門家を養成する高等教育研究機関（「知床自然大学院大学」と称する）を、設立目的に沿

った幅広い形態の教育機関と位置づけ、教育体制や教育課程、教育内容の検討を計画策定専門委員会を中心に行った。設立する教育機関は保護管理の現場教育に重点を置くこととしている。現場教育に必要な教育プログラムの検討と具体的実践を目的に「知床ネイチャーキャンパス 2019」を9月7日より開催した。今回は初めてオンライン講義を取り入れ、全国に分散する受講生と講師がWeb会議システムにより一堂に結ばれた。2日間の講義を実習の前にオンラインにより実施することで、現地実習やチームワークによる演習の時間をより多く確保することが可能となった。知床現地実習は9月11～13日の3日間、斜里町内の世界遺産エリア及び斜里町ウトロをフィールドに実施した。ネイチャーキャンパスの実実施計画は専門委員会で検討の上、地元専門家を含む講師陣と具体的内容を固めた。開催結果はアンケート調査結果を含めてまとめ、各講師の意見及び専門委員の意見を元に評価を行った。2019年結果を含めた4年間の結果は設立する教育機関のカリキュラム作成の基礎資料になるとともに、2020年以降の教育活動等の開催に生かすこととした。なお、当事業は目指す教育機関の教育内容を具体的に示す広報活動としても位置づけており、活動の詳細は【2】-（1）に報告している。

#### ① 計画策定専門委員会の開催

令和元年度第1回（通算第9回）の計画策定専門委員会を、2020年2月21日（金）13:15～15:40に8名の委員と1名のオブザーバーの出席により、札幌市中央区の北海道立道民センター（かでの2.7）で開催した。会議では知床ネイチャーキャンパス 2019の開催結果の報告と評価、ネイチャーキャンパス4年間の成果を踏まえた今後の方向性、新たな事業展開について議論した。特に、国内他地域と連携した実践事業による教育プログラム策定、人材養成と認証制度との関係、保護管理体制確立へ向けた出口戦略などについて検討した。

#### <知床自然大学院大学計画策定専門委員>

委員長	梶 光一	東京農工大学名誉教授・財団理事	委員	中川 元	元知床博物館館長・財団業務執行理事
副委員長	中村太士	北海道大学大学院農学研究院教授	委員	松田裕之	横浜国立大学大学院環境情報研究院教授
委員	小林万里	東京農業大学生物産業学部教授	委員	横山真弓	兵庫県立大学自然環境科学研究所教授
委員	桜井泰憲	北海道大学名誉教授	委員	吉田正人	筑波大学大学院人間総合科学研究科教授
委員	鈴木正嗣	岐阜大学応用生物科学部教授	オブザーバー	大泰司紀之	北海道大学名誉教授・財団顧問
委員	敷田麻実	北陸先端科学技術大学院大学教授	オブザーバー	渡辺綱男	元環境省自然環境局長・財団顧問
委員	曾野知雄	レスコム北海道合同会社代表	オブザーバー	田中俊次	東京農業大学名誉教授・財団代表理事

#### ② 計画策定と事業実施に向けた専門委員や研究者等からの意見聴取

専門委員会会議に加えて、委員間の意見交換や打合せの場を随時設けた。また、学術会議の動向や人材養成に関する情報交換をe-mail等で随時行った。ネイチャーキャンパスの具体的実習計画作成時には、講師を委嘱した専門委員や研究者と具体的な打合せを行うことが出来た。その他、知床世界遺産に関わる各種会議や学生

実習等で来町した専門委員や研究者との意見交換を行った。また、11月に金沢市で開催された「野生生物と社会」学会大会に参加し、野生動物保護管理の研究者や実務者との情報交換や意見交換をすることができた。

## (2) 地元自治体、地元環境団体、国の現地機関との連携協力体制の構築

地元自治体と公益財団法人知床財団、道内の関係公益法人などに当財団の活動や計画について説明や情報提供を行い、意見交換や活動への理解と協力を求めた。斜里町とは副町長及び担当部長・課長との協議の場が7月と10月に持たれ、前年度活動内容の報告と知床ネイチャーキャンパス2019への協力依頼、今後の活動方針に関する意見交換等を行った。知床財団には知床ネイチャーキャンパスの実実施計画への助言と理事長及び主任研究員の講師協力、現地実習指導などで協力を得ることが出来た。斜里町環境課長及び環境省・林野庁の自然保護官や森林官には実習指導の協力をいただいた。認定NPO法人北海道市民環境ネットワーク「きたネット」とは財団事業の広報や情報交換を行い、また同法人主催による「人と野生動物との距離」に理事が参加して意見交換を行った。このように、地元自治体や関係団体、国の地元環境機関との連携を深め、教育機関設立と教育体制の確立へ向けた基盤作りを進めた。

## (3) 設立へ向けた資金確保の取り組み

教育機関設立計画の策定や知床ネイチャーキャンパスなどの教育実践活動、人材養成と教育機関の必要性を訴える普及啓発活動に必要な活動資金、及び知床に教育機関を設立するための資金獲得へ向けた取り組みを継続した。活動資金の獲得では新たなパンフレット作成準備を行い、賛助会員の倍増を目指したが、教育実践活動などの充実を優先し、本格的な要請活動は次年度に引き継がれた。また、活動資金獲得のための民間活動助成金の申請を複数行ったが採択には至らなかった。設立資金の獲得では、養成する人材像・教育内容・教育方法について理解を深める広報活動の中で支援要請を行った。

## 【2】知床自然大学院大学が必要であることを広く世の中に訴えて賛同者を募る広報事業、及びそのための調査研究事業（定款第4条第2項）

### (1) 「知床ネイチャーキャンパス2019」の開催と広報活動

当財団が目指す教育機関の具体的教育内容が見える形で示し、野生生物との共生を実現する人材養成の必要性や必要な能力、養成のための現場教育の実際について理解を広めるために「知床ネイチャーキャンパス2019」を開催した。4年目となる当事業では、新たにオンライン講義を取り入れ、知床現地実習と合わせた新しい教育プログラムとして実施した。事前のオンライン講義は2019年9月7日～8日の

2日間、試験等で受講できなかった受講生向きに翌9日に録画の配信を行った。現地実習は9月11日～13日の3日間、知床世界自然遺産地域内と斜里町ウトロの野外フィールド、及び地元保護管理施設を会場に開催した。受講者は24名で、北海道内の他、東京都、新潟県、岐阜県など各地からから大学生20名、大学院生2名、社会人2名の合計24名が参加した。今回のテーマは「現場で学ぼう！知床の課題解決」とし、森林再生や河川生態系の復元、ヒグマとの共存について、知床での取り組みを学び、その課題と解決策について考察し提案する内容とした。講師には森林や魚類、哺乳類の専門家、法学や保護管理、地域マネジメント専門家など8名のほか、知床財団研究員に実習指導を受けた。また、知床国立公園自然保護事務所の自然保護官、知床森林生態系保全センターの森林官、斜里町役場の環境課長などにも聞き取り実習の指導を受けることができた。受講生はグループに分かれてまとめのワークショップ、及び課題解決の提案作成を行い、最終日に発表を行った。発表会はオープンキャンパスとして地元町民や指導協力者にも参加いただき、受講生・講師を交えた質疑や意見交換を行った。

知床ネイチャーキャンパスの開催状況はSNSで随時発信を行い、終了後には記録写真や動画を使用した報告資料として、ブログやホームページへのアップロード、ニューズレターへの掲載を行った。具体的な実践活動の広報によって、人材養成に必要な教育プログラムや、知床の実習フィールドの価値について理解を広めることができた。なお、当事業による教育プログラムの実践結果は、設立する教育機関のカリキュラムなどの計画策定にも生かすこととしており、過年度結果と合わせて基礎資料とすることができた。

## (2) 「知床ネイチャートーク」の開催

地元で開催する普及事業として「知床ネイチャートーク」を開催した。3年目となる令和元年度は、2019 Summer Talk として8月に2回、2020 Winter Talk として1月に2回開催した。会場は斜里町ウトロの4カ所のホテルで、知床に滞在中の観光客と地元住民を対象にした。内容は知床の自然と歴史、野生動物と人との関わりや、知床の保護管理策や課題を紹介するもので、野生生物と人との共存の重要性や人材養成の重要性を啓発するものである。参加者には支援要請パンフレットとオリジナル絵はがきを配布し、賛助会員の参加要請も行った。

各回の日時・会場・参加者数は下記の通り。

= Summer Talk =

8月22日(木)	午後8時～9時	KIKI 知床ナチュラルリゾート	参加者 45人
8月23日(金)	午後8時～9時15分	ホテル知床	参加者 55人

= Winter Talk =

1月24日(金)	午後8時～9時10分	知床第一ホテル	参加者 35人
1月26日(日)	午後8時～9時10分	北こぶし知床ホテル&リゾート	参加者 25人

### (3) 札幌シャチの会、首都圏賛助会員・支援者の会の活動

札幌圏で知床自然大学院大学設立財団を応援する市民の会「札幌シャチの会」では2019年11月から2020年2月まで4回のセミナーと2020年3月に特別講演会の開催を計画し、1～3回のセミナーを実施した。しかし2月の第4回セミナーと3月の特別講演会は新型コロナウイルス感染症防止の観点から次年度への延期を余儀なくされた。

「札幌シャチの会リレーセミナー」会場：札幌エルプラザ

第1回「野生生物の保護管理の必要性」 2019年11月6日（水）18:30～

講師：鈴木幸夫 参加者：23名

第2回「世界自然遺産知床の価値 特異性」 2019年12月11日（水）18:30

講師：中村康江 参加者：24名

第3回「知床の歴史 保護の歩みと現況」 2020年1月22日（水）18:30～

講師：神山和義 参加者：17名

第4回 2020年2月26日予定 ※次年度へ延期

特別講演会 2020年3月26日予定 ※次年度へ延期

首都圏賛助会員・支援者の会では、2020年2月中旬に講演・学習会「持続可能な社会とSDGs（仮題）」（講師：多田博之）を企画し、「3月13日開催」とお知らせしていたが、新型コロナウイルス感染予防の観点から延期とした。

### (4) 関係団体との協力関係構築と連携・共催事業による広報・普及・交流活動

国内や北海道内の学協会、環境関係団体や地域活動団体等との連携を継続し、財団活動の周知や理解拡大に努めた。各種会議や学会、シンポジウム等の場では関係大学の教員や研究者・専門家との意見交換、行政や企業関係者との交流を行った。日本学術会議が2018年6月に設置した「人口縮小化社会における野生動物管理のあり方の検討に関する委員会」は、環境省からの審議依頼によるもので、当財団の梶光一理事が副委員長として、専門委員の鈴木正嗣氏、横山真弓両氏が幹事として参画し、第5回委員会には中川業務執行理事が参考人として出席した。2019年8月には審議結果の回答が山極学術会議会長から鳥居環境省自然環境局長に手交された。回答書には科学的野生動物管理や基礎自治体の専門組織力の強化等と共に、それを担う高度専門職人材の教育プログラムの創設が提言された。この回答書を元に科学的保護管理体制の構築と専門的人材養成が国に強く認識され、今後の諸政策に反映されることとなった。12月3日には同委員会が主催するシンポジウム「持続可能な野生動物管理システムの構築と人材養成」が日本学術会議講堂で開催され、人材養成が実現することによって提言されたシステムが完成すべきことが確認された。

### (5) 刊行物やネットを活用した広報活動

## ① ニュースレターの発行

令和元年度中に設立財団ニュースレターを3回発行し、主催事業や連携事業の活動報告、保護管理や人材養成に関する情報等を掲載した。ニュースレターは賛助会員・支援者のほか、関係行政機関や保全関係団体、研究者、事業協力者、報道機関等にも送付した。

- ・設立財団ニュースレター第18号（2019年11月15日発行）A4版16p。  
内容：日本学術会議の回答、平成30年度事業報告決算報告、財団のおすすめ図書紹介、評議員会・理事会開催報告、セミナー開催案内他。
- ・設立財団ニュースレター第19号（2019年12月27日発行）A4版16p。  
内容：「知床ネイチャーキャンパス2018」の開催結果報告、「知床ネイチャートーク2019」の開催報告、日本学術会議公開シンポジウム、「野生生物と社会」学会参加報告他活動報告。
- ・設立財団ニュースレター第20号（2020年3月25日発行）A4版8p  
内容：知床&ワイルドライフマネジメントNEWS、知床ネイチャートーク・リレーセミナー等活動報告、財団おすすめ図書の紹介、専門委員会・理事会開催報告。

## ② ネットを活用した広報活動

・ホームページの運用 ホームページを財団活動を紹介する主要な場として運用し、行事の案内や活動の結果報告を掲載した。加えて、「野生生物との共存」「専門家の必要性」「育成する人材像」等について写真を使ったわかりやすい解説を掲載し、財団の目的や理念を紹介すると共に賛助会員募集や支援要請を行った。また、設立趣旨や定款・役員等の基本情報や、各年度の活事業計画・事業報告、予算書・決算書等の情報公開、ニュースレターの各号の公開をホームページの中で行った。

- ・公式ブログの更新、SNSの活用

令和元年度は、公式ブログでは知床の自然に関するものや行事の案内、活動報告等8回の更新を行った。SNSの活用では設立財団FacebookとTwitterを継続運用し、行事案内や知床の自然・野生生物に関する話題など幅広い情報提供を行ったほか、ブログ記事への誘導を行った。2019年度もFacebookとTwitterのフォロワーは順調に伸びており、賛助会員や支援者とを繋ぐツールとして、また、野生生物や人材養成に関心を持つ幅広い皆さんとの交流や情報交換の場となった。

### （6）報道機関への情報提供と取材対応

北海道内の各新聞社やテレビ局等への情報提供や取材対応を行い、知床ネイチャーキャンパスの等の活動状況の周知を図るとともに、理念・目的の広報に努めた。これらの報道を通して教育プログラムの実際や目指す人材育成について広範な理解を得ることができた。

### （7）パンフレット、行事案内チラシの活用

活動の理解と支援者の拡大を目的に、知床ネイチャーキャンパスの4年間の活動を中心に紹介した新たなパンフレットを作成した。また、財団紹介パンフレットや専門家養成を解説したパンフレットを引き続き活用し、各種会合や行事開催の場で配布して賛助会員拡大、支援者拡大に努めた。知床ネイチャーキャンパス2019の開催案内チラシを作成し、道内道外の大学や大学教員、関係行政機関、賛助会員等に送付し、参加者募集を行った。加えて、斜里・羅臼両町の住民には新聞折り込みチラシとして配布し、ネイチャーキャンパスの紹介とオープンキャンパスへの参加を呼びかけた。

## (8) 調査研究事業

人材養成のための教育プログラム、特にマネジメントの現場教育のプログラムや教育課程に関する資料収集と調査研究を進めた。また、知床ネイチャーキャンパスの実践を通して、Web会議システムを活用したオンライン講義の方法について研究し、「野生生物と社会」学会で発表した。2019年11月に金沢市で開催された同学会では、テーマセッション「野生動物管理体制を支える教育プログラムを創る」に参加し、知床ネイチャーキャンパス実施例をもとに、人材養成とその仕組み作りに関する議論に参加した。このセッションには大学教員の他、実務者や学生など幅広い参加者があり、今後の進展につながる有意義な議論があった。

## II 理事会及び役員等に関する報告

### (1) 理事会

#### ① 令和元年度第1回理事会

(定款第36条に基づく「決議の省略」による)

理事会の決議があったと見なされた日：2019年5月22日

<決議事項>

第1号議案 「平成30年度(2018年度)事業報告書(案)」承認の件

第2号議案 「平成30年度(2018年度)決算報告書(案)」承認の件

第3号議案 平成30年度第1回評議員会(定時)招集の件

書面による同意の意思表示によって可決した。

#### ② 令和元年度第2回理事会

開催日時：2019年6月14日(日)午後2時30分より

開催場所：斜里町ゆめホール知床・会議室2

<報告事項>

1. 代表理事及び業務執行理事の業務執行報告
2. 賛助会員の加入状況及び募金の状況について

### 3. その他の業務報告

#### <協議事項>

1. これまで3年間の活動評価と今後3年間の活動展開について
2. 教育機関実現に向けたロードマップと役員体制について
3. 知床ネイチャーキャンパス 2019 の開催計画について

#### ③ 令和元年度第3回理事会

開催日時：2020年3月20日（金）午後1時30分より

開催方法：オンライン会議システムを使ったWeb理事会を開催

#### <決議事項>

- 第1号議案 「令和2年度（2020年度）事業計画（案）」承認の件  
第2号議案 「令和2年度（2020年度）収支予算（案）」承認の件  
第3号議案 「知床自然大学院大学計画策定専門委員会」委員選任の件  
以上、原案通り可決した。

#### <報告事項>

1. 代表理事・業務執行理事の業務報告
2. 賛助会員の加入状況・募金の状況
3. 「知床ネイチャーキャンパス 2019」の開催結果報告
4. 「知床ネイチャートーク 2019」の開催結果報告
5. 首都圏・道央圏の賛助会員・支援者対象イベントの開催状況報告
6. 日本学術会議の回答とその後の諸情勢について
7. シンポジウム・学会等への参画と活動連携について
8. 活動助成金の応募と審査結果について
9. 第9回専門委員会の開催結果について
10. ファンドレイジング活動について
11. その他の活動状況報告

#### <協議事項>

1. 次年度以降の事業展開と資金確保について

#### ④ 令和元年度第4回理事会

（定款第36条に基づく「決議の省略」による）

理事会の決議があったと見なされた日：2020年3月30日

#### <決議事項>

- 第1号議案 「知床自然大学院大学計画策定専門委員会規則」改正の件  
第2号議案 「知床自然大学院大学計画策定専門委員会」委員の選任の件  
書面による同意の意思表示によって可決した。

#### ⑤ 役員等に関する事項

2020年（令和2年）3月31日現在

#### <役員>



役職	氏名	就任年月日	担当職務	略歴
理事	田中俊次	2013年1月22日	代表理事	東京農業大学名誉教授
理事	中川 元	2013年1月22日	業務執行理事	元知床博物館館長
理事	上野雅樹	2013年1月22日	業務執行理事	知床ユネスコ協会理事
理事	家村充尋	2013年1月22日		知床ユネスコ協会会員
理事	石川 勝	2014年6月8日		羅臼町前教育委員長
理事	梶 光一	2013年1月22日		東京農工大学名誉教授 「野生生物と社会」学会会長
理事	笠井文考	2018年6月10日		会社社長・東京農業大学非常勤講師
理事	金澤裕司	2013年1月22日		羅臼町教育委員会自然環境教育主幹
理事	齋藤卓也	2013年1月22日		公益財団法人北海道環境財団評議員
理事	鈴木幸夫	2013年1月22日		会社員、在日外国人支援団体理事
理事	中田尊徳	2016年6月12日		会社社長 斜里青年会議所元理事長
理事	滝澤大徳	2014年6月8日		知床山考舎代表
理事	三宅雅久	2014年6月8日		北海道ふるさと会連合会理事
監事	木村耕一郎	2013年1月22日		斜里町議会議員・前議長
監事	廣川昭廣	2013年1月22日		税理士

※役員報酬を支給している常勤役員は1名。役員には当法人の事業・業務に関する必要な経費を、本人からの申請に基づき支給している。

<顧問及び相談役>

役職	氏名	就任年月日	略歴
顧問	大泰司紀之	2013年1月22日	北海道大学名誉教授
顧問	松浦晃一郎	2013年1月22日	中部大学客員教授 元ユネスコ事務局長（第8代）
顧問	渡辺綱男	2013年1月22日	自然環境研究センター上席研究員 国連大学シニアプログラムコーディネーター 元 環境省自然環境局長
相談役	丹保憲仁	2013年1月22日	北海道立総合研究機構前理事長 北海道大学名誉教授(第15代総長)

※理事会の諮問に応じて当法人の事業・業務に対して指導・助言などのご支援をいただいている。

※報酬は支給していないが、理事会から委任された当法人の事業・業務に関する必要な経費を支給する場合がある。

## (2) 評議員会

### ① 令和元年度第1回評議員会（定時）

（定款第20条に基づく「決議の省略」による）

評議員会の決議があったと見なされた日：2019年6月14日

<決議事項>

第1号議案 「平成30年度(2018年度)事業報告書(案)」承認の件

第2号議案 「平成30年度(2018年度)決算報告書(案)」承認の件  
書面による同意の意思表示によって可決した。

### ② 評議員に関する事項

2020年（令和2年）3月31日現在

<評議員>

役職	氏名	就任年月日	略歴
評議員	石 弘之	2013年1月22日	環境問題研究家
評議員	上野洋司	2013年1月22日	前知床斜里町観光協会会長
評議員	午来 昌	2013年1月22日	元斜里町長
評議員	鈴木眞吾	2013年1月22日	元斜里町教育委員長
評議員	土橋利文	2013年1月22日	斜里町商工会会長
評議員	深山和彦	2013年1月22日	ウトロ漁業協同組合代表理事組合長

※報酬を支給している評議員はないが、当法人の事業・業務に関する必要な経費を、本人からの申請に基づき支給している。

## III 法人の運営状況について

### (1) 事務局の状況

常勤の業務執行理事1名と非常勤の事務局長（理事）1名、常勤の事務局員1名による運営体制としている。また、必要に応じて代表理事及び業務執行理事が事務局における決裁業務を職掌しているほか、会計処理や決算においては理事2名が在宅で事務局をサポートしている。会計処理の正確性と効率化を図

るため、平成 26 年度より会計ソフトを導入した。

## (2) 税額控除団体の認定

平成 26 年 8 月 8 日、当法人は内閣総理大臣から「税額控除に係る証明」を受けている。令和元年 6 月、更新の申請を行い、令和元年 8 月に令和 6 年 8 月までの証明を受けた。これにより、寄付金控除の選択肢が「所得控除」に加えて「税額控除」制度が適用される。

## (3) ファンドレイジングの状況（賛助会員と寄附金について）

	種別	予算（件数）	予算（金額）	実績（件数）	実績（金額）
賛助会員	個人	200	1,000,000	105	525,000
	団体	15	150,000	4	40,000
	法人・法人特別	80	4,000,000	38	1,560,000
	小計	295	5,150,000	147	2,125,000
寄附金		---	4,850,000	28	2,480,112
	合計	---	10,000,000	175	4,605,112
大学院設立資金	目標額	---	495,000,000	3 (累計)	95,000 (2,616,240)

(単位：円)

賛助会員の新規募集と寄附金の要請は、役員による要請行動のほか、事務局からの依頼文書やパンフレットの送付による案内を随時行った。また、主催事業や関係イベント等でのパンフレット配布やホームページの活用、SNS を利用した広報活動を行った。令和元年は新規賛助会員の加入を得た一方で、会員継続されなかった会員があったため、賛助会員数、金額ともに前年度をやや下回る結果となった。一般寄附金は 28 件で前年度より件数、金額ともにやや下回った。大学設立資金の確保については、活動実績の広報と活動資金の確保に重点を置いたことから、十分な要請行動にはできなかった。なお、知床ネイチャーキャンパスの開催資金獲得のため、オンライン寄付サイトからの寄付金受入を行った。

### 【付属明細書】

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」はない。

以上